

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2021年 3月 10日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0044

所在地 東京都世田谷区赤堤1-10-23 三井ハイム102

評価機関名 合同会社フェアリンク

認証評価機関番号

機構 12 - 213

電話番号 03-6379-1449

代表者氏名 加藤浩之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤浩之	福祉、経営	H0201050
	②	湊 岳美	福祉	H0801018
	③	田鹿 勉	経営	H1301026
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	障害児多機能型事業所			<input type="checkbox"/> 食事を対象にする
評価対象事業所名称	KIZUNA調布			指定番号 1354200402
事業所連絡先	〒	182-0024		
	所在地	東京都調布市布田6丁目25番8号		
	TEL	042-444-1980		
事業所代表者氏名	山寄綾子			
契約日	2020年 7月 3日			
利用者調査票配付日(実施日)	2020年 8月 6日			
利用者調査結果報告日	2020年 10月 1日			
自己評価の調査票配付日	2020年 7月 17日			
自己評価結果報告日	2020年 10月 22日			
訪問調査日	2020年 10月 28日			
評価合議日	2020年 10月 28日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査の一環として、担当評価者が一定時間、事業所に滞在し、実際のサービス提供場面における子どもの室内活動の様子等の観察をおこなった。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、指導訓練室の隣室の事務室からガラスを通して観察した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2021年 3月 9日

事業者代表者氏名 代表理事 青木 伸二郎

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)常に妥協しないプロフェッショナルな集団であり続け、希望ある未来を創り上げていく(理念) 2)小さなことでも誠意をもって真摯に取り組める人間になる(行動規範) 3)企業の利益だけを優先するのではなく、社会の必要性を判断し行動する(行動規範) 4)上司に従順であるのではなく、物事の真実、正しいものを見極め行動する(行動規範) 5)「ありがとう」の言葉とともに、たくさんの人々を笑顔にしていこう(ミッション)</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直であること ・ポジティブであること ・勉強熱心であること ・感謝の気持ちを持つこと ・チームでの役割を認識し、人の嫌がる仕事、地味な仕事こそ、積極的に行えること <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>私たちは、これからたくさんの人にお会いしていきます。私たちが大切にするのは、相手の立場に立って思いやる気持ち、一人ひとりができることを精いっぱい行い、そして自分の行動に責任をもち、相手を勇気づけてあげること。いつか「ありがとう」の言葉とともに、たくさんの人々を笑顔にしていこうことが、私たちの使命であると考えています。</p>

調査対象

調査開始時点での登録者のうち、利用実績のある保護者全員。ただし対象は世帯とし、複数の子どもが通っている場合は年齢が最も低い子どもに対するサービスについて回答を求めた。

調査方法

書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を事業所経由で保護者に郵送し、記入後、評価機関に直接返送してもらった。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)

24
24

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
24	0	24
17	0	17
70.8	0.0	70.8

利用者調査全体のコメント

共通評価項目では、肯定的な回答(「はい」)の割合が8割以上に達した項目が16問中12問を占め、中でも問7(共有スペースの清潔・整頓)と問11(子どもの気持ちの尊重)では回答者の全員が、また問1(通所による身体機能・健康の増進)と問8(職員の接遇)では1人を除く全員が「はい」と回答している。一方、「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を合わせた割合が最も高かったのは問6(家族に対する相談援助等による精神的なサポート)で、約35%に上っている。共通評価項目に加え、総合的な感想として事業所のサービスに対する満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「大変満足」が17人中12人(約71%)、以下、「満足」4人(約24%)、「どちらとも言えない」1人(約6%)で、「不満」、「大変不満」の回答はなかった。そのような回答結果から、利用者の満足度は高い水準にあることが推測される。また、利用者調査の一環として、担当評価者2名が普段の療育場面の観察を行った。1コマ1時間の枠で2コマの療育の様子を隣室からガラス越しに観察した。子どもたちが職員と一緒に遊ぶ感覚で楽しく身体を動かしている様子を確認することができた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いいえ	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	16	1	0	0
実際のアンケート調査票の質問文(以下、Q)：事業所に通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	15	0	1	1
Q：事業所での活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか				

3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	14	3	0	0
Q:事業所に通うことが、お子さんの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っていると思いますか				
4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身につけているか	14	2	0	1
Q:事業所に通うことで、お子さんに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身につけてきたと思いますか				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	15	2	0	0
Q:お子さんの様子や、支援の内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有ができていますか				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	9	4	2	2
Q:ご家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩みや進路の相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っていると思いますか				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	17	0	0	0
Q:事業所の生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか				
8. 職員の接遇・態度は適切か	16	1	0	0
Q:職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどは適切だと思いますか(職員としてふさわしいと思いますか)				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	12	0	1	4
Q:お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの職員の対応は信頼できますか				

10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	9	2	0	6
Q: 子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	17	0	0	0
Q: 職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
12. 子どものプライバシーは守られているか	14	2	1	0
Q: お子さんやご家族のプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	15	1	0	1
Q: お子さんの支援に関する計画を作成したり見直しをする際に、事業所はお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	15	1	0	1
Q: お子さんに対する支援の計画やサービス内容など、事業所での生活についての職員の説明は、わかりやすいと思いますか				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	14	1	0	2
Q: 事業所に対して不満に思ったことや要望を伝えるとき、職員はきちんと対応してくれていると思いますか				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	12	2	1	2
Q: 事業所の利用に関して何か困ったことがあったときに、外部の窓口(役所や第三者委員など)にも相談できることを職員はわかりやすく伝えてくれましたか				

調査対象

調査開始時点の登録者のうち利用実績のある利用者全員。本人による回答を原則とするも、回答者47人のうち、利用者本人による回答は8人(約17%)、本人が家族と相談しながらの回答が9人(約19%)、家族が本人の気持ちを推察しての回答が15人(約32%)だった。

調査方法

事業所との協議により、書面による無記名式のアンケート調査を実施した。アンケートでは、依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を事業所経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接返送してもらった。

利用者総数

60

共通評価項目による調査対象者数

60

共通評価項目による調査の有効回答者数

47

利用者総数に対する回答者割合(%)

78.3

聞き取り

計

60

47

0.0

78.3

利用者調査全体のコメント

共通評価項目では、肯定的な回答(「はい」)の割合が8割以上に達した項目が13問中9問を占め、中で問3(相談対応)、問5(職員の接遇)、問8(子どもの気持ちの尊重)では回答者の9割以上が「はい」と回答している。一方、「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を合わせた割合が最も高かったのは問13(外部の苦情相談窓口の案内)で、約32%に上っている。ただし、問12(不満・要望への対応)では「はい」の割合が9割近くに達しており、職員の対応を通じて概ね解決が図られている様子がうかがえる。共通評価項目に加え、総合的な感想として事業所のサービスに対する満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「大変満足」が24人(約51%)、以下、「満足」18人(約38%)、「どちらとも言えない」1人(約2%)で、「不満」、「大変不満」の回答はなかった。そのような回答結果から、利用者の満足度は概ね高い水準にあることが推測される。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所での活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	39	5	0	3
アンケート調査票の質問文(実際は漢字にふりがなを付している。以下、Qと表記)：「KIZUNA調布」でのかつどうやあそびは、おもしろいですか(自分に合っていると思いますか)				
2. 事業所での仲間との関わりは楽しいか	40	3	1	3
Q：「KIZUNA調布」で、ほかの利用者といっしょに過ごす時間は楽しいですか				

3. 職員は、話し相手や、相談相手になってくれるか	44	2	0	1
Q: 職員はあなたに話しかけたり、あなたの相談にのってくれたりしますか				
4. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	38	3	1	5
Q: 「KIZUNA調布」では、食事をする場所やトイレなどはいつもきれいで、かたづいていると思いますか				
5. 職員の接遇・態度は適切か	44	3	0	0
Q: 職員のことばづかいやたいど、身だしなみなどは、きちんとしていると思いますか				
6. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	37	6	1	3
Q: あなたがけがをしたり、病気などでぐあいが悪くなったときに、職員に安心してまかせることができますか				
7. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	39	2	0	6
Q: ほかの利用者との間のけんかや、子ども同士のいじめなどがあつた場合、職員はきちんとかいけつしてくれると思いますか				
8. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	44	1	0	2
Q: あなたは、職員があなたの気持ちを大切にしてくれていると思いますか				
9. 子どものプライバシーは守られているか	30	3	1	13
Q: あなたがほかの人に知られたくないひみつのことを職員はないしょにしてくれていると思いますか				

10. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	38	1	1	7
Q:「KIZUNA調布」での生活で、あなたが目標とすることを決めるときに、職員はあなたの気持ちや要望を聞いてくれますか				
11. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	35	4	0	8
Q:職員は、あなたに対して、どのような支援や手助けをしてくれるのか、わかりやすく説明してくれましたか				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	41	0	1	5
Q:あなたが「もっとこういうふうにしてほしい」とか、「こういうことはいやだから、やめてほしい」と思ったことを職員に伝えたときに、職員はあなたの話をきちんと聞いて、考えてくれると思いますか				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	14	8	7	18
Q:「KIZUNA調布」のことで何かこまったことがあったときに、職員以外の人(役所や外部の相談係の人など)にも話しができることをわかりやすく教えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	評点(○●)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	○あり ●なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	評点(○○)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点(○○○)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	<p>法人の理念やミッション等の明示と関係者への浸透を図る取り組みの推進が期待される</p> <p>運営法人は同じ形態の事業所を都内に2か所経営している。事業に関わる様々な人々との絆を大切にしながら、運動を中心とする療育で子どもが有する可能性を広げることを理念に掲げ、ホームページ等で発信している。経営層は職員向けのミッションや行動規範を掲げているが、明示はしていないとことで、今後、職員の理解を深める取り組みを進めることが期待される。保護者は当事業所の特徴をあらかじめ知ったうえで利用している方が多いと思われるが、契約時の重要事項説明書に記載された運営方針は一般的な内容にとどまっているように見受けられる。</p> <p>経営層が経営資源を効果的に配分しながら、理念の実現にリーダーシップを発揮している</p> <p>当事業所は一コマ1時間の枠で3～4名の子どもにグループ単位の療育を展開している。法人の経営層は経営効率や他事業所との差別化を意識しながら、送迎サービスや食事の提供は行わず、療育に人的資源を集中して、厚めの人員配置を実現している。また、利用者の要望を踏まえた週末営業の実施や緊急事態宣言下での迅速なオンライン事業への切り替え等においてリーダーシップを発揮している。今後、法人内の意思決定プロセスの透明化とともに事業所内の管理体制を確立し、法人の理念のもとで職員集団の結束をさらに強化していくことが期待される。</p> <p>ホームページやコミュニケーションアプリ等を活用して保護者に重要事項を伝えている</p> <p>法人のホームページで役員交代等の重要な変更事項を公表している他、緊急事態宣言下におけるサービス提供方法の変更について、東京都からの通知と併せてアナウンスしている。また、SNSの中で国内で最もユーザー数が多いコミュニケーションアプリを、通所児童の保護者に対する即時の緊急連絡やペーパーレスのアンケート調査等に活用している。そのアプリを使っていない保護者に対しては、電話やメール等、その他の方法で代替している。</p>	

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 0/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(●●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者及び職員の意向を把握しながら、営業日数の段階的な拡大を図っている</p> <p>昨年度まで営業日は平日の週5日だったが、利用待機状況から営業日数を段階的に増やし、現在は年末年始を除く毎日の営業となっている。営業日を増やす際には利用者の意向調査と併せ、サービスを担う職員からも意見も聴取し、手当の支給や代休の保障等、労働条件を整えたうえで開始に踏み切った経緯がある。事業の安定的な継続のための職員の待遇改善は当初より営業日の拡大の目的の一つだった。これから就学後の子どもの受け皿の確保が次の課題となっており、経営層は中長期的なスパンでの事業計画の作成の必要性を認識している。</p> <p>事業目標の達成に向けた実践的な計画の作成及び関係者との共有の取り組みが期待される</p> <p>短期的な課題については、課外活動としてのフットサルの導入や運動プログラムの記録用アプリの導入に際して、計画性を持って組織的な検討を進めている。年度単位の計画としては、行事の実施計画が作成されている。経営層が重要と考えている法令遵守に向けた職員の勉強会については、外部研修には随時参加しているものの、研修計画の作成には至っていない。今後は事業所の目指すビジョンや事業目標を明示し、関係者との共有を図ったうえで、経営環境の変化に対応しながら目標達成を実現するための実践的な計画とその裏付けとなる予算の作成が望まれる。</p>		

評価項目		
3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 0/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(○○●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリー3の講評		
<p>法令遵守を法人の重点的な取り組み事項に位置付け、運営の透明性の確保に努めている 法令遵守は法人の重点的な取り組み事項の一つとなっている。国が示したガイドラインに基づき、事業所の自己評価結果と利用者の保護者等に対するアンケート調査の結果を法人のホームページで公表している他、運営の透明性確保の観点から、指導訓練室の外部との出入りに近いスペースに保護者や見学者用の観覧コーナーを設け、利用者に影響がない範囲で、参観や見学を積極的に受け入れている。ただし、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、受け入れを見合わせている。</p> <p>複数の職員体制が維持される中、職員の待遇等に対し利用者の高い満足度が示されている 虐待防止に向けた取り組みとして管理者が外部研修を受講し、職員全員参加のミーティングの場で伝達研修をおこなっている。今回実施した利用者調査では、職員の待遇や子どもの気持ちを尊重した対応について、保護者及び利用者本人から全般的に高い満足度が示されている。支援の現場では複数の職員体制が維持されていることから、職員間の健全な相互牽制の機能が働いていることの表れと見られる。</p> <p>事業所の機能や専門性を地域に還元する取り組みの計画的展開に向けた検討が期待される 管理者が市内の関係機関の連絡会に参加し、児童発達支援・放課後等デイサービスの事業者と保育所、幼稚園、小・中学校等との連携を模索する取り組み等に参画している。経営層は今後、地域における法人の存在価値を高めるために、地域支援や移行支援にもシフトしていくことが必要と認識しており、地域の福祉ニーズを踏まえて事業所が保有する機能や専門性を地域に還元する取り組みの計画的な展開に向けた検討が期待される。</p>		
カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>想定されるリスクに対する具体的な対応方法の検討等、実践的な取り組みが期待される</p> <p>事故防止対策として、サービス提供時間中に職員が子どものケガ等に至る危険な状況を招いたり、そうした場面を察知したときに、その状況等を所定の様式にまとめて報告し、職員間で共有する取り組みをおこなっている。これまで行政に報告するような大きな事故は発生していない。現在は新型コロナウイルス感染症防止対策に重点的に取り組んでいる。今後、不審者侵入など想定されるリスクに備え、発生時の対応方法等を検討してマニュアル等に整理すると同時に、利用者も含めた訓練を行うなど、より実践的な取り組みに向けた検討が期待される。</p> <p>電子ファイルを含めた情報管理の仕組みと漏えい防止対策の強化に向けた検討が望まれる</p> <p>利用者から預かった個人情報について、使用の目的や条件等を保護者に書面に明示し、同意の意思確認をおこなっている。個人情報保護の取り組みに関して、紙媒体の情報の収集・利用・保管・廃棄については適切な管理と運用のための仕組みがあることが確認できた。しかし、パソコンで管理されるデータに関してはセキュリティ対策や管理体制が必ずしも十分とは言えず、規定やルールが存在しない状態になっている。今後は、電子ファイルを含めた情報管理の仕組みの整備と併せ、セキュリティ対策のさらなる強化に向けた検討が期待される。</p> <p>大規模災害の発生に備えた事業継続計画の作成に向けた関係機関との協議が期待される</p> <p>現在、地元自治体と災害時に事業所の一部を発達障害児等の避難所として提供するための協定の締結に向けた協議を進めている。今後、大規模災害が発生した場合の避難所の運営体制や事業所が提供しているサービスの継続方法等について、行政をはじめとする関係機関とも協議しながら計画の作成を進めたうえで、利用者・職員をはじめとする関係者に対し周知を図ることが必要と思われる。</p>		
カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(0●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
○あり ●なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
<p>職員採用は有資格の経験者を基本とし、得意分野を活かした療育体制の構築を進めている</p> <p>6名の常勤職員の他、3名の非常勤職員を配置している。管理者が児童発達支援管理責任者を兼務している。採用方針として新規卒卒者は採らず、常勤職員であってもダブルワークを可としている。資格と経験を有するポテンシャルの高い人材を積極的に採用するための求人活動を展開している。現在、療育を担当する職員はすべて保育士または児童指導員の有資格者で、職務経験等により、療育担当や運動担当等の役割を分担しながら、それぞれの得意分野を活かした業務遂行体制の構築を進めている。</p> <p>療育に対するスーパービジョンの体制を整備し、専門性を高めていくことが期待される</p> <p>経営層は療育に対する職員の知見を深め、専門性を高めていくことを重要な課題と位置づけている。今後は外部研修や先進的な取り組みを行う他施設の見学等を通じて発達障害等に対する職員の理解を深めるとともに支援方法を学び、日々の活動や個別対応において試行錯誤を重ねながら、組織として療育のノウハウの蓄積をさらに進めていくことが期待される。そのためにも、療育に対するスーパービジョンの機能の強化が重要であり、法人内外の資源の活用についても併せて検討が望まれる。</p> <p>職員にとって働きやすい環境の整備に向け、福利厚生充実等に取り組んでいる</p> <p>事業所では、誕生日休暇や連続5日間の休暇の取得を可能としている他、週末営業の開始にともない、職員の意向を踏まえて土・日・祝日手当を新設するなど、職員の待遇改善や福利厚生充実等に努めている。また、業務に関連する各種の研修情報を事務室内に掲示し、職員が参加を希望する場合は受講料を事業所で負担するなど、職員の学習意欲を後押ししている。さらに、所定外労働時間を一定以下に抑制するなど、様々な工夫により職員が意欲をもって働き続けることができるような環境の整備に努めている。</p>		

7 カテゴリー7	
事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>2018年10月の開設当初は月・火・水・金・土曜の週5日営業だったが、利用待機状況を踏まえて営業日数を増やすことを目標に掲げ、2019年10月より木曜を開所する方向で準備を進めてきた。保護者に対するアンケート調査を実施し、利用日を週1日から2日に増やす希望が実際の程度あるのかを把握のうえ、サービスを担う職員の意見も聞きながら、無理のない形で開始に向けて取り組みを進め、予定より1か月早く週6日営業に切り替えることができた。その結果、利用待機状況の改善に加え、通所回数の増加や曜日の変更を希望していた既存の保護者の要望にも応えることができた。</p>	
<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>営業日数の拡大により、子どものニーズに合ったクラスの選択の幅が広がったことで、途中退会や子どもの休みが減少した。その結果、療育機会の確保による子どもの心身機能や社会性の高まり、さらには家庭での育児負担の軽減といった効果につながり、保護者の満足度にプラスの影響を及ぼしている。その実績を踏まえ、2020年の1月からは日曜日も開所して、年末年始を除く週7日の営業体制に切り替えている。</p>	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>チームスポーツを通じた感情の共有体験を積む中で、子ども同士が互いに仲間と認め合い、相手に自分から関わっていかうとする意識を高めることを目的に、未就学児を対象とした週末の活動プログラムとして、隣接する市にある専用施設でのフットサルを2020年1月より導入することを目標に掲げた。2019年12月に希望者を対象にしたフットサルの体験会を実施し、子どもの状況を確認したうえで実際のプログラムの検討を進め、当初は1クラスの人数を5人程度に絞って、手厚い体制でスタートした。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>最初は子どもたちが集中できない場面もあったが、活動時間を当初の1時間から45分に短縮し、メリハリをつけることで、子どもたちの集中力が増し、目的に沿った取り組みの形が整ってきている。今回の利用者調査では、事業所の利用を通じた子どもの社会性の定着に関して、保護者より非常に高い評価が寄せられており、この取り組みの成果の表れと見ることができる。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>体験利用のチラシの配布やホームページを通じて事業所の情報を広く案内している</p> <p>A4サイズ両面カラー刷りの体験利用の案内チラシを折り込み広告用を作成し、サービス提供地域に配布している。利用対象は受給者証を受けた幼児から中学生であり、保護者の目から見て発達が気になる子どもの具体的な行動や傾向等を例示するとともに、運動療法をメインとした「運動学習支援施設」であることを謳っている。裏面にはトランポリン等の器具が並んだ指導訓練室の写真を掲載し、実際のイメージを持てるようにしている。法人のホームページにも同様の情報を掲載している他、問い合わせボタンからメール送信画面にジャンプする構成にしている。</p> <p>地元自治体等の関係機関が作成した冊子や情報サイトから事業所の情報が閲覧できる</p> <p>地元自治体が市内の障害児・者通所施設を紹介する冊子を作成し、希望者に配布するとともに、ホームページからダウンロードできるようにしている。事業所ごとに1ページが割り当てられ、当事業所も所定の様式の中にサービスの特徴等を掲載している。また、市の子育て応援サイトの児童発達支援事業所の紹介ページにも当事業所より提供した情報が写真画像付きで掲載されている。その他、東京福祉保健局が運営するサイト(障害者サービス情報)にも当事業所の情報が掲載されている。</p> <p>体験利用や見学の申し込みを随時受け付け、状況に応じて対応している</p> <p>体験利用を随時受け付けており、利用を希望する子どもの状況や空きの状況を踏まえて体験に入るクラスを決めている。実際の療育は1時間単位で、各クラスの定員を2～3名から3～4名としている。現在は利用待機者が20人を超えており、希望のクラスに空きが生じた時点で、子どもの状況等に応じて順に案内している。見学も随時受け入れているが、現在は新型コロナウイルス感染防止の観点から既存の保護者の参観も控えてもらっている状況にあり、慎重に対応している。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>保護者に対し利用契約の内容を文書に沿って個別に説明し、同意を受けている</p> <p>事業所にて児童発達支援管理責任者が利用契約書及び重要事項説明書の内容を保護者に説明し、同意を受けたくうえで、双方が署名・捺印をした書面を取り交わしている。また、契約書別紙において、それぞれ受給者証に記載された支給量の範囲内で利用する曜日や時間帯を定め、途中に変更があればその都度、保護者の同意のもとで差し替えをおこなっている。その他、事業所内の見学コーナーの壁に他市が作成した児童発達支援・放課後等デイサービスの利用における注意点をわかりやすくまとめた文書を掲示し、周知を図っている。</p> <p>保護者との個別面談を通じて子どもの支援に必要な情報等を所定のシートに集約している</p> <p>利用開始時の保護者との個別面談により、子どもの支援に必要な情報を所定のフェイスシートに集約し、それをもとに児童発達支援管理責任者が個別支援計画を作成している。フェイスシートには利用にあたっての子どもと保護者のそれぞれの希望が記載されている他、子どものコミュニケーションや身辺自立の状況等を項目ごとに整理している。一人一人の子どもの課題を踏まえ、保護者と協議して、運動中心のクラスか、運動に加えて創作や学習活動を組み込んだクラスとするかを決めている。</p> <p>通所することが子どもにとって特殊な経験とならないよう、雰囲気づくりに配慮している</p> <p>療育の最初に「始まりの会」があり、その日の参加児童と担当職員、活動のメニュー等を皆で確認している。初めて参加する子どもがいる場合は、職員間であらかじめ子どもの情報を共有するとともに、始まりの会で他の子どもに紹介している。通所することが子どもにとって特殊な経験とならないよう、同じくらいの年齢の子どもや職員と一緒に楽しく遊ぶ場所として、明るい雰囲気づくりに努めている。サービス終了時は支援の継続性に配慮し、保護者や相談支援事業所等の関係機関からの求めに応じて療育の経過等の情報を提供している。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

11/11

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

フェイスシートで子どもの生活や発達の全体像、及び支援ニーズの把握に努めている

子どもの基本的な情報は、個別のフェイスシートにまとめている。保護者から利用希望の問い合わせがあった際、このシートについて説明して渡し、記入したものを契約時に持参してもらっている。契約時には、一つひとつ内容を確認し、必要に応じて追加事項を記入している。その後、内容に変更があった場合には、その都度、赤ペンで追記している。このシートにより、子どもの課題や本人および保護者の希望、遊びや興味・関心、社会性や運動等における子どもの様子や身辺自立の状況等、子どもの生活や発達の全体像の把握に努めている。

子どもの様子や状況等に応じて、6か月を目安に個別支援計画を作成・更新している

個別支援計画を立てる際は、児童発達支援管理責任者が初回はフェイスシートから、見直しの際は、観察した子どもの様子や保護者との面談から子どもの発達の全体像を把握し、子どもと保護者のそれぞれの希望を踏まえて支援ニーズを抽出している。そのうえで、児童指導員が加わったミーティングで支援目標を検討し、個別支援計画の作成及び更新をおこなっている。個別支援計画の目標は6か月を目安に立てているが、利用を開始して間もない時期等は、必要に応じて2~3か月に1回程度、保護者と面談し、子どもの状況等を確認している。

日々の活動前後のミーティングで子ども一人一人の状況等を職員間で共有している

一日の活動終了後の職員ミーティングで子ども一人一人の様子等を振り返り、個別の支援目標に対してできたこと、気付いたこと等をその場で所定のシートに入力している。次回の活動前のミーティングで、このシートを読み上げ、必要に応じて前回対応した職員からの補足説明を受けて、子どもの状態や目標達成の状況等を共有している。運動プログラムの内容については、デザインソフトを用いて担当者が計画を立て、実施記録を作成している。

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報の使用目的等を保護者に書面で明示し、同意の意思確認をおこなっている</p> <p>利用者から預かった個人情報及び肖像権について、使用の目的や条件等を保護者に書面にて明示し、同意の意思確認をおこなっている。子ども同士が同じ幼稚園や小学校等に通っているなど顔見知りの関係にある場合もあるため、保護者の気持ちを踏まえて、プライバシーの保護に努めている。ただし、今回の利用者調査では、その日の療育後に行われる職員からのフィードバックの際に個人情報が他の保護者に漏れることを懸念する声が保護者の一部から寄せられており、問題の所在の把握が望まれる。</p> <p>子どもの社会性を高めるために、チームスポーツを活動プログラムに取り入れている</p> <p>週末の活動プログラムとして、隣接する市にある専用施設でフットサルをおこなっている。活動の目的は子どもがフットサルの技術を磨くことよりも、チームスポーツを通じた感情の共有体験を積む中で、子ども同士が互いに仲間と認め合い、相手に自分から関わっていかうとする意識を高めることに置いている。今回の利用者調査では、通所を通じた子どもの社会性の定着に関して保護者から高い評価が示されており、職員間で取り組みの成果を分析しながら、組織的な支援のノウハウをさらに高めていくことが期待される。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている		○非該当
○あり ●なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○●)	
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p>苦情や虐待の対応マニュアルを整備している他、新型コロナウイルス対策を講じている</p> <p>利用者からの相談・苦情対応や子どもに対する虐待の疑いを発見した場合の組織対応等についてのマニュアルを整備している。虐待対応については、外部研修に参加した職員による伝達研修を全員参加のミーティングの場で実施した。新型コロナウイルス感染拡大のもとで緊急事態宣言が発出された4～5月にかけては、迅速にオンライン授業に切り替え、通所再開後も三密回避のための保護者参観の中止や消毒の徹底等の対策を講じている。今後は、療育中の子どもの嘔吐物処理について模擬演習を行う等、より実践的なマニュアル作成を進めることが期待される。</p> <p>日常的な職員間の話し合いをもとに、業務の標準化をさらに進めていくことが期待される</p> <p>その日の療育の前後に職員ミーティングを行い、活動メニューの確認や振り返り、出席児童一人一人の様子と個別支援計画に基づく目標の達成状況等を確認している。よりよい支援を目指した職員同士の話し合いが日々行われており、今後、現状のマニュアルの整備状況とそれぞれ関連する法規や現場におけるサービス等の実状を踏まえた見直しの必要の有無、これから整備が必要なマニュアルの種類等を職員間で定期的に確認、検討し、組織の特徴や規模等に見合った業務の標準化をさらに進めていくことが期待される。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	16/19
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている			
評点(○○●)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している		○非該当
○あり ●なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている		○非該当
評価項目1の講評			
<p>個別支援計画に基づき、子ども一人ひとりの目標を意識した支援を行っている</p> <p>毎週、子ども毎に活動の様子や状態等を記入する「子ども一言情報」シートには、それぞれの子どもの支援目標が記され、毎回の活動は、目標を意識した支援が出来るようにしている。さまざまな器具を使った運動プログラムや集団遊びは、クラス毎の子どもの組み合わせや、子どもの希望、その日の子どもの状態等に応じて組み立てている。毎日、活動前のミーティングで、前週の「子ども一言情報」シートを読み上げて共有し、必要に応じて補足説明も加えて、子どもそれぞれの目標達成に向けて、どの職員も適切な支援が行えるようにしている。</p> <p>絵カード等で見通しを持たせ、スモールステップな活動で自信ややる気を高めている</p> <p>その日の活動内容はホワイトボードに文字と絵や写真で明示され、始めの会で子ども自身が確認し、活動の見通しが持てるようにしている。プログラムを進行する職員の外に、子どもに寄り添う職員がおり、その日の子どもの状態等に応じて、個別に支援している。個々の目標に対して、毎回スモールステップな活動を組み立てることでほめる機会を多くし、自信ややる気を高め、次のチャレンジにつながるように支援している。この夏から法人の公認心理士が週1回来所し、子どもの特性に応じたコミュニケーションのとり方等について職員に助言している。</p> <p>子どもの所属する保育園や学校等とのさらなる連携が望まれる</p> <p>地元自治体の地域精神保健福祉ネットワーク連絡会に参加し、関係機関と連携する機会がある。学校との連携としては、特別支援学校の教員の見学受入れや、子どもの実態や指導・助言の内容、考えられる適切な支援の方法について記された、機能訓練実施報告書を小学校から受け取ったことがある。今後は、保護者の同意を得たうえで、支援の継続性や、より効果的な支援のために、個別ケースについて、子どもの所属する保育園や学校、他法人の児童発達支援または放課後等デイサービス事業所等との連携をさらに強化することが望まれる。</p>			

2 評価項目2		この評価項目は入力できません	
【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている			
		評点()	
評価	標準項目		
○ あり ○ なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている		○ 非該当
○ あり ○ なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている		○ 非該当
○ あり ○ なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている		○ 非該当
○ あり ○ なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している		○ 非該当
○ あり ○ なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている		○ 非該当
○ あり ○ なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている		○ 非該当
		評価項目2の講評	この評価項目は入力できません

3 評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている		評点(〇〇〇)・非該当1
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○非該当
○あり ○なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	●非該当
評価項目3の講評		
<p>導入等の前後活動を含めて1回60分間の運動プログラムで、子どもの成長を促している</p> <p>平日は午後2時から、土日は午前から1回60分間の運動プログラムを組んでいて、子ども一人当たりの利用は、週1、2回である。各クラスは、課題の似通った子どもを集める等、子どもの状況や、今後1年間の成長過程を想定して編成することで、より子どもたちの成長につながるよう、工夫している。運動プログラムは、子どもと職員が一对一の場合は、子どもにやりたいことを聞いて取り入れたりと、子どもの要望に応じて鬼ごっこ等の集団遊びの時間を増やしたりしている。昨年からは、より実践に近い環境での体験活動として、フットサルを取り入れている。</p> <p>運動プログラム等を通して、基本的な生活習慣やマナーが身に付くよう支援している</p> <p>靴を脱ぐ、手を洗う、荷物をロッカーに入れる、挨拶をする等、プログラム開始前の行動は、日課として取り組めるよう動線を作り、声掛けや、必要に応じて絵カードを提示して支援している。始まりの会と終わりの挨拶は子どもの当番制で、皆の前で姿勢を正して、適切な言葉で発表する機会となっている。器具を用いた運動プログラムでは、自分の順番まで待つ、指導者の提示したルートや方法で動く、終わった元位置で座る等、ルールを身につけられるよう支援している。人が嫌がる行為に対しては徹底して声を掛けて、マナーを守れるよう支援している。</p> <p>送迎は保護者の責任でおこなわれ、事業所は関与していない</p> <p>子どもの様子や変化に応じて声掛けを変えたり、保護者への聞き取りにより、運動メニューを柔軟に変更し、子ども一人ひとりの力が発揮できるよう配慮している。送迎に付いては、児童発達支援および放課後等デイサービスのいずれにおいても、保護者がおこなうこととしている。児童クラブ等から子どもがひとりバス、または徒歩で来ることもあるが、その際は、事前に連絡をもらうことになっており、活動終了後は保護者が迎えに来る。今後は、子どもが一人で来る際のバスの時刻や、バス停からのルート等については、確認することが望まれる。</p>		
4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>基本的な健康情報はフェイスシートで把握し、状況に応じて保護者から聞き取っている</p> <p>健康状態は、平熱、食物アレルギー、服薬に関する情報の他、体調が悪いときのサインや既往症等についても、保護者にフェイスシートに記入を求めている。その情報を基に、利用開始前の面談で、特に持病がある子どもについては、対応方法等について保護者から詳しく聞き取り、状態の変化があった際、保護者とすぐに連絡が取れるようにしている。子どもが利用している医療機関名や連絡先、診断名等の情報についても、フェイスシートで把握している。すべての職員が迅速に的確な対応ができるよう、周知徹底することが課題であると、事業所は認識している。</p> <p>運動プログラムの活動に影響しそうな健康状態のときは、保護者に同席を求めている</p> <p>子どもの情報は個別ファイルで管理しており、健康に課題のある子どものファイルは、目立つよう背表紙に印をつけている。状態が変化した際に迅速に対応できるよう、そのファイルの一番上に、提携病院の情報を挟んでいる。健康状態に不安な様子が見られるときは、改めて保護者の連絡先を確認したり、状況によっては活動に同席してもらっている。コロナ禍においては、入室時の検温の他、喘息による咳が出ている等、健康状態を詳しく聞き取り、安心して活動に参加できるよう配慮している。</p>		

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている		○非該当
●あり ○なし	4. 【放課後等デイサービス】 子どもの状況に応じて利用日や利用時間を設定している		○非該当
評価項目5の講評			
<p>楽しく飽きずに体を動かせるよう、子どもの状態に合わせてプログラムを変化させている</p> <p>運動プログラムは、子どもが楽しく飽きずに取り組めるよう、子どもの状態や状況に応じて組み立てている。体の動きがぎこちない、ルールに従うことが難しい、友達との関わりが難しい等の課題を持つ子どもが多く、一人ひとりの子どもに合わせて、少しずつ動きを増やして行ったり、ルールを加えていく等の工夫をしている。観察調査時には、療育用の運動用具で池に見立てた囲みを作り、池から出てはいけい、ボールにぶつかってははいけい、というように順々にルールを追加して、子どもたちが楽しく飽きずに体を動かせるよう支援していた。</p> <p>子どものやる気を引き出し、達成感を高められるよう支援している</p> <p>子どもが主体的にプログラムに取り組めるよう、子どもの前向きな意見は必ず取り入れるようにしている。例えば、腕を鍛えたいという希望があれば、効果のある動きを取り入れたり、皆と遊びたいという要望に対しては、職員も交えた鬼ごっこやかくれんぼを取り入れている。観察時には、少しずつ難しい動きをする中で、「次、何やろうか」の職員の声掛けに、「動物をやる!」と子どもが答え、熊やワニ、カエル等の動きを真似て動いた。子どもの個性や特性に合わせて、子どものやる気を引き出し、達成感を高められるよう支援している。</p> <p>広々とした空間で、子どもは思い切り体を動かしている</p> <p>運動プログラムに使用する部屋には、運動用具以外の物はできるだけ置かないようにしている。床材には柔らかい物を使い、柱には保護材を当てて、安全に遊べる空間を確保している。土日には近隣のフットサルコートで、体験活動の一つとしてフットサルを実施している。未就学児については、毎週の運動療育に加えてこの活動に参加することで、小学校に入学した際、友達とのコミュニケーションがスムーズになる等、より実践的な社会性を身に付けられるようにしている。利用の曜日や時間の変更は、子どもと事業所間の調整がつけば受け入れられている。</p>			
6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている		○非該当
●あり ○なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している		○非該当
評価項目6の講評			
<p>活動の前後に、子どもの様子や家庭の状況等について、保護者と情報を共有している</p> <p>保護者との情報交換は、毎回保護者が迎えに来た際に、その日の子どもの活動内容や様子を口頭で伝えるだけでなく、専用のシートに記入した内容を確認してもらっている。保護者には、子どもに変化が見られた際は、その都度報告してもらうよう伝えており、活動時の職員の声掛けや、対応の仕方に活かすようにしている。毎週の活動時の情報交換の他には、当初は2、3か月に1回、その後は半年に1回程度の面談で、情報を共有し、支援に活かしている。</p> <p>保護者の意向も尊重し、より効果的に子どもを支援できるように計画している</p> <p>昨年度、営業日を増やした際、保護者にアンケートを取り、その後個別にも聞き取り、週1回の利用から2回に増やしたり、希望に応じて曜日を変更したりしたことで、退会や欠席が少なくなるなどの効果があった。個別支援計画書には、保護者の希望を記す欄もあり、それも取り入れて支援目標を立てて、プログラムを構成している。面談等において、家でできる取り組みを教えてください、等の要望が保護者から出れば、具体的な方法について伝えたり、必要に応じて相談機関等を紹介している。</p> <p>検査結果や他施設での療育内容等の共有を保護者に働きかけている</p> <p>保護者には、子どもが発達検査や運動検査等を受けた際は、施設での効果的な支援のために、可能な範囲で結果を共有したい旨を面談で伝えている。他施設での療育内容を保護者を介して共有することで、支援効果が高まることもある。子どもが不安定な時は、家庭での様子等を聞き取るようにしている。児童発達支援の利用者アンケート調査結果によれば、家族に対する精神的なサポートは役に立っていると思うか、という問いに「はい」と答えたのは約半数である。今後は、家庭への支援をさらに充実することが望まれる。</p>			

7 評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(●●)・非該当1
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している		○非該当
○あり ●なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている		○非該当
○あり ○なし	3. 【児童発達支援センター】 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している		●非該当
評価項目7の講評			
<p>地域との連携により、子どもの生活の幅を広げるための取り組みが望まれる</p> <p>市内の催しは掲示し、配布している。土日に行うフットサルは、近隣の施設を利用しているが、地域の人との交流はない。当施設は運動療育に特化しているため、保護者の期待は、子どもが運動を通して身体能力や社会性を向上することであるため、他の療育機関や放課後等デイサービス、習い事等と組み合わせて利用している子どもが多く、地域との交流や地域活動のニーズは、低い。今後は、運動療育の専門性を地域に還元する機会を作ること等が期待される。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル①	活動前後のミーティングで、子ども一人ひとりの状況等を職員間で共有し、支援している	
内容①	子どもの基本的な情報、および発達の全体像は、個別のフェイスシートにまとめられ、内容に変更があった際は、その都度赤字で記入している。1日の活動終了後には、子ども一人ひとりについて職員間で振り返りを行い、個別の支援目標に対して出来たこと、気付いたことを、その場で「子ども一言情報」シートに詳細に入力している。翌週の活動前の職員ミーティングでは、このシートを読み上げ、必要に応じて前週に対応した職員が補足説明して、子ども一人ひとりの状態や目標達成度等を共有したうえで、活動を開始し、個別に支援している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている
タイトル②	子どもの発達課題を踏まえ、子どものできることに焦点を当てた支援を展開している	
内容②	発達性協調運動障害のある子どもは、極端な不器用さから劣等感を抱え込む場合もあり、事業所では子どものできることに焦点を当てて、それを少しずつ増やしていきながら子どもの自信を高めていく支援を展開している。運動療法をメインとした「運動学習支援施設」であることを謳いながらも、支援の基本は子ども一人ひとりの発達課題を踏まえた個別の療育であることを職員ミーティング等で確認している。事業所では、子どもに対するカウンセリングの機能の強化を目指して、今年度より非常勤の公認心理士を配置している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	運動を中心とした短時間枠での療育サービスの提供により利用者満足を高めるとともに、経営層を中心に事業の安定的な継続に取り組んでいる
	内容	当事業所は一コマ1時間の枠で3～4名の子どもに対し、運動を中心としたグループ単位の療育を展開している。経営効率や他事業所との差別化を意識しながら、送迎や食事の提供は行わず、療育に人的資源を集中して、厚めの人員配置を実現する中で、利用者満足を高めている。また、資格と経験を有する人材を積極的に採用するための求人活動を展開しつつ、福利厚生の実施等、労働環境の整備を進めている。利用者の要望を踏まえた週末営業の実施や緊急事態宣言下での迅速なオンライン事業への切り替え等においても経営層がリーダーシップを発揮している。
2	タイトル	運動療育やチームスポーツ等を取り入れた活動プログラムを通じて、子どもの身体機能や社会性の高まりを実現している
	内容	週末の活動プログラムとして、隣接する市にある専用施設でフットサルをおこなっている。活動の目的は子どもたちがチームスポーツを通じた感情の共有体験を積む中で、互いに仲間と認め合い、相手に自分から関わっていきこうとする意識を高めることに置いている。途中から活動時間の短縮化を図り、メリハリをつけることで、子どもたちの集中力が高まっている。今回の利用者調査では、事業所の利用を通じた子どもの身体機能や社会性の高まりに対して保護者から高い評価が示されており、事業所の運動療育や活動プログラムの成果の表れと見ることができる。
3	タイトル	個別支援計画で立てた目標に対して、できたこと、気づいたことを職員ミーティングで毎回確認しながら、支援を検討、展開している
	内容	さまざまな器具を使った運動療育や集団遊びのプログラムを、子どもの組み合わせや希望、その日の子どもの状態等に応じて組み立てている。子どもの活動の様子や状態等を個別に記録する専用のシートには、それぞれの子どもの支援目標が明示され、職員が目標を念頭に置いてそれぞれの子どもと関わり合えるように工夫している。また、活動前の職員ミーティングで、前回のシートの記録内容を共有し、必要に応じて職員間で相互に情報を補足しながら、子ども一人一人の目標達成に向け、全員が適切な支援を行えるよう取り組みを進めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	療育に対するスーパービジョンの体制を整備し、組織として療育に対する専門性をさらに高めていくことが期待される
	内容	事業所では、子どもの発達課題に応じた療育を展開するうえで、療育に対する職員の知見を深め、専門性を高めていくことを重要な課題と位置づけている。今後は外部研修や先進的な取り組みを行う他施設の見学等を通じて発達障害等に対する理解を深めるとともに、支援方法を学び、日々の個別対応や活動において試行錯誤を重ねながら、組織として療育のノウハウの蓄積をさらに進めていくことが期待される。そのためにも、療育に対するスーパービジョンの機能の強化が重要であり、法人内外の資源の活用についても併せて検討が望まれる。
2	タイトル	事業目標を明示し、関係者との共有を図ったうえで、その達成に向けた実践的な計画を作成し、管理のツールとして活用することが期待される
	内容	短期的な課題については計画性を持って組織的な検討を進めている一方、経営層は中長期的なスパンでの事業計画の作成の必要性を認識している。年度単位の計画としては、行事の実施計画が作成されているものの、経営層が重要と考えている法令遵守に向けた職員に対する勉強会の実施を含む研修計画等は作成に至っていない。今後は、事業所の目指すビジョンや事業目標を明示し、関係者との共有を図ったうえで、経営環境の変化に対応しながら目標達成を実現するための管理のツールとなる実践的な計画とその裏付けとなる予算を作成することが望まれる。
3	タイトル	想定されるリスクに備え、事業継続計画や対応マニュアルの作成、実践的な訓練の実施等に向けた検討を進めることが期待される
	内容	現在、地元自治体と災害時に事業所の一部を発達障害児等の避難所として提供するための協定の締結に向けた協議を進めている。今後、大規模災害が発生した場合の避難所の運営体制や事業所が提供しているサービスの継続方法等について、行政をはじめとする関係機関とも協議しながら計画の作成を進めたうえで、関係者に対する周知を図ることが必要と思われる。また、これまで行政に報告するような大きな事故は発生していないものの、想定されるリスクに備え、対応マニュアルの作成や実践的な訓練等の実施に向けた検討を進めることが期待される。